

開倫塾

塾長 林 明夫

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。先週の土曜日の足利の花火大会は天候にも恵まれ素晴らしかったです。日曜日に宇都宮のふる里宮祭りにも行ってきましたが、これもとても盛り上がってよかったです。最後に行われたはしごの上でかけ声と共にする演技、けやりは素晴らしかったです。

しつけとは、美しい立ち居振る舞いと敬語表現を含む言葉遣いをいいますが、足利の花火大会や宇都宮のふる里宮祭りも、ゴミを全部持ち帰ろうという運動をしていました。翌日は前の日より町中が綺麗になったと聞き、栃木県はしつけが行き届いていると感心したと同時に、大会の参加者、主催者に対しては尊敬の念を抱きました。

今日は先週の8日に新聞で話題になった文部省が出した義務教育の改革案についてお話します。文部大臣の川村さんはすごい人ですね。小学校6年間、中学校3年間で6・3制とありますが、これを市町村が地方の実態に合わせて例えば、小学校を5年にして、中学校を4年にするなど9年間であれば独自の編成にしてよいという改革案でした。また学習指導要領もここまで教えればよいという到達目標でしたが、去年の4月から最低基準になり、これより徹底させ、各科目ごとに義務教育の段階で習得すべきナショナルミニマムという最低基準をクリアすれば他は何を教えても自由になりました。さらに驚くことは教員免許の取得は専門職大学院の修了を義務付けすることです。他の国では学校の先生になるには教授法の専門大学院の修士課程を皆さん終了しています。ですから、とても教え方がうまいのです。しかし、日本の教員養成課程では教え方の勉強はほとんどしていません。やっているのは教える内容についての勉強です。教え方については教育実習の時ぐらいしか本格的にしません。このように国際標準から見ると今までの日本の先生は、教え方の勉強をしていないのですからレベルは低いといえます。これを国威標準に近づけ、同じにするために専門職大学院終章を義務付け、さらに10年ごとに先生の適正判断をして更新制にする。しかし、義務教育の国庫負担制は堅持する。ですが、これでこれから先の日本の教育は大幅によくなると思います。各市町村では自分たちの市町村の教育をどのようにするか徹底的に討論することが必要になります。採用試験も自由にやってよいのですから、どのようにするか、小・中の編成、カリキュラム、レベル、町の特色に合った教育、先生の研修についてなど自由に考えてよいのです。日本の戦後の教育が始まって以来のおもしろい改革です。

皆さんも是非考えてみて下さい。栃木県では市町村合併がかなり進んでいますのでできれば、合併後の市町村の教育について考えてみて下さい。今日は義務教育改革によりこれからの教育が変わっていくことをお話しました。

明日、8月15日は開倫ユネスコ協会で「平和の鐘を鳴らそう」という運動をします。お昼に音の出る物を使って音を鳴らし、世界平和を祈念してほしいと思います。このようなことも大切なことだと考えています。是非ご協力下さい。